

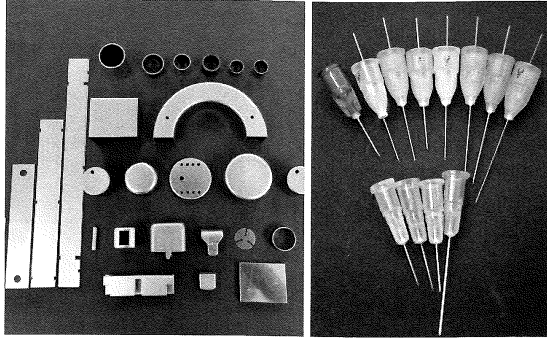
## 太鼓判押します!!



栃木県 産業労働観光部  
工業振興課  
ものづくり企業支援室 主任  
藤沼誠人さん

同社の魅力は大きくふたつ。ひとつは、主力の精密パイプ部品で大手医療機器メーカーや協力メーカーとの太いパイプを築き、本県の医療機器産業を牽引していること。もうひとつは、川嶋社長をはじめとした社員の皆さんの魅力です。今後も取引先や社員同士のパイプをより強固なものにし、世界にその魅力を発信してもらいたいです。

同社が手がけるさまざまな分野の精密パイプ部品



グローバル展開を着実に進めている川嶋社長



【2018年6月に竣工した栃木工場】

本工場では、これまで人の手で行っていた単純作業をAI化することで、生産効率の大幅向上を実現させた

## 関東 栃木県

# 栃木精工(株) 多種多様な精密パイプ部品を一貫製造 グローバル展開にも挑戦!!

### 社長の自社採点

企画開発	☆☆☆☆☆
営業力	☆☆☆☆
成長力	☆☆☆☆
収益力	☆☆☆☆
地域貢献力	☆☆☆☆
人材力	☆☆☆☆
専門性	☆☆☆☆
リサーチ力	☆☆☆
計画性	☆☆☆☆
リスク マネジメント	☆☆☆☆

栃木県栃木市平柳町 2-1-5  
☎ 0282-27-1133  
創業 1948年  
従業員 240名  
資本金 1億円  
<https://www.tochigiseiko.co.jp>

QRコード対応のケータイ  
電話で調べたい方です。



社長のQ&A

○A 機器や分析機器、ガス機器、計器類など、幅広い精密パイプ部品メーカーとして高い評価を得ている栃木精工(株)。主力製品は国内シェア約5割を誇る歯科用麻酔針などの医療機器だが、聞けば同社は創業時から注射針の製造を手がけていたという。同社3代目の川嶋大樹社長によると、1950年代から80年代前半あたりまで、同社の製品はもともと一般的な皮下用の注射針1種類のみだったそう。ニーズは安定して高く、多いときで月1億本以上もの製品が輸出され、売り上げも堅調だったという。ところが85年、プラザ合意によるドル高是正で日本の輸出産業全体が大打撃を受けた。当然、同社も注射針の価格がイッ気にな下がったことで、それまで約37億円だった売上規模が7億円にまで落ち込み、ピーク時に270人いたスタッフは約70人にまで減ってしまっただけでなく、事業改革に乗り出した。それまでの

単一製品を自社一貫工程で製造するスタイルから、複数の協力工場と連携しながら多様な複雑な製品をつくりだす方針に切り替え、特殊な用途の注射針やカテーテル、内視鏡の処置具などの製品へと手を広げていったのだ。さらに医療業界だけでなく、プリンター部品やVHSカセットのガイドロールのパイプといった工業製品なども手がけ、それまで以上に精密パイプ部品製造ならではのノウハウを蓄えていったという。たとえば「円筒形の線材や棒製品なら外形だけを意識すれば事足りるが、パイプとなると内径にも気を配らねばならず、とくに医療機器の管状部品は高い精度が求められる」と川嶋社長。また「樹脂製のチューブはコネクタやアダプターなどの金属部品が組み合わされることが多い。接合方法はさまざまであり、長年の試行錯誤なくしてそのノウハウは得られない」と話す。

こうしたさまざまなノウハウを精力的に身につけてきたおかげで、同社は98年頃に売り上げを安定させることに成功。その後、川嶋社長が3代目を引き継いだ11年には、近隣のプラスチック射出成型工場を買収し、さまざまな医療機器製品を一貫製造できる体制を確立した。結果、以後10年で取引先は約100社から300社以上にまで増えたという。

このようにモノづくりメーカーとして確固たる地位を築いた栃木精工だが、現在、川嶋社長はこれまで以上に海外市場の開拓に力を入れているそう。同社や海外メーカーの日本法人などを通じてだけでなく、自社から直接海外に製品を売り込むと、医療機器の海外販路開拓に携わった経験のある人材を複数採用し、長期プロジェクトとして取り組んでいるという。ターゲットはヨーロッパやアメリカ、アジア。苦境を乗り越えて培った技術力を武器に、グローバルに活躍してほしいものだ。